1．科目名（単位数）	教育哲学特論　（2 単位）	3．科目番号	EDMP5231
2．授業担当教員	【池袋】高橋　勝　【名古屋】石﨑　達也		
4．授業形態	演習	5．開講学期	春期
6．履修条件・他科目との関係			
7．講義概要	複雑化した現代社会において、生命体として生まれたヒトの子が、「人間に成る」（Menschen-werden, Human-becoming）とはどのようなことか。自立と社会化という従来の教育学の基礎概念を、現代教育哲学の視点から再検討し、多文化、異世界を流動的に行き来しながら新たな生を織り上げていく発達と生成、成熟の教育哲学を考察する。単一アイデンティティの形成を前提にした近代的発達論に対して、多文化、異文化と出合いながら自己を脱皮して、重層的で多元的アイデンティティ形成に向かう現代の人間形成の構造を、受講生とともに明らかにする哲学的研究作業が本講義の概要である。		
8．学習目標	まず、これまでの教育学の基本概念である自立と社会化の概念を受講者に理解させるために、カントの自立とデュルケームの社会化の概念を資料をとして提示し、それぞれが、個人中心と集団中心の人間形成の論理であることを受講者が理解できるようにする。この個人と集団の対立図式が、J.J.ルソーからFr.W.ヘーゲルに至る近代教育学の基本構図となってきたことを受講者に理解させた上で、この個人と集団を統合的に関係づける概念としてE.エリクソンのアイデンティティ論が提示されてきたことを説明する。このアイデンティティ論は、今日の人間形成論に多大な影響を与えてきたが、1990年代以降のグローバル化の波とともに、ヒト、モノ、情報が国境を超えて移動する時代になると、一元的アイデンデンティよりも、数々の異文化を取り込んで編集し直す多元的アイデンティティを織り上げていく時代を迎える。受講生が、他者や異文化と出会うことで、それまでの狭い自己が崩壊し、新たな自己が生み出されてきた経験を振り返り、それを記述し、発表し合うことで、生のメタモルフォーゼ（自己変成）を実感すること、そしてこの実感を研究活動に反映させるようになることが、本講義の目標である。		
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	授業内容に関する800字程度の感想小レポートの課題を出すことを考えている。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】（池　袋）高橋勝『流動する生の自己生成――教育人間学の視界』東信堂、2014 （名古屋）高橋勝『流動する生の自己生成――教育人間学の視界』東信堂、2014 【参考書】高橋勝『経験のメタモルフォーゼ――〈自己変成〉の教育人間学』勁草書房、2007 高橋勝・新井保幸編『教育哲学の再構築』福村出版、2006 高橋勝・新井保幸編『教育哲学』樹村房、1994 皇紀夫他編『臨床教育学序説』柏書房、2002 M.ヴァン=マーネン（村井尚子訳）『生きられた経験の探究――人間科学がひらく感受性豊かな〈教育〉の世界』ゆみる出版、2011		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 出席率 20%、小レポート及び最後の課題レポートの内容 80% ○評定の方法 出席率、小レポート、最後の課題レポートの内容を総合的に判断して、評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	常識にとらわれず、自分たちのイマジネーションと創造的思考力をフル回転できる授業にしましょう。		
13. オフィスアワー	授業中に知らせる。		

14. 学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テーマ	現代における人間の自己形成、相互生成、成熟

【学習の目標】グローバル定常型社会における新しい教育課題と実践を考える。
【学習の内容】近代教育は、子どもの自立に向けて文化の伝達に力を入れてきたが、後発型近代化の時代が終わり、グローバル定常型社会になった現代の教育の主題は、人間の「幸福」（well-Being）に向けたさまざまな生涯学習の場づくりである。
【キーワード】近代教育、グローバル定常型社会、幸福、生涯学習
【学習の課題】グローバル定常型社会における教育課題を自由に考える。
【参考文献】広井良典『グローバル定常型社会――地球社会の理論のために』岩波書店、2009
【学習する上での留意点】現代とはいかなる時代か、そこに求められる教育イメージを自由に構想するようにアドバイスする。

2．テーマ	現代の教育哲学―生命と文化

【学習の目標】現代社会、生命、文化、教育の関係を、哲学的に深く考察する。
【学習の内容】現代とはいかなる時代かを深く考え、生命体としての人間という原点に立ち返って文化をとらえ直す。
【キーワード】現代社会、生命、文化、教育
【学習の課題】現代社会、生命、文化、教育の関係を深く考察する。
【参考文献】見田宗介『現代社会はどこに向かうのか――高原の見晴らしを切り開く』岩波書店、2018
【学習する上での留意点】社会哲学と教育哲学の関連を注視させる。

3．テーマ	社会化と教育

【学習の目標】教育における啓蒙主義、個人主義、自立、社会化、相互主観的な生世界等の概念を学ぶ。
【学習の内容】個人主義教育への批判として登場したデュルケムの「社会化」論を、現象学的社会学の視点から捉え直す。
【キーワード】啓蒙主義、個人主義、自立、社会化、相互主観的な生世界
【学習の課題】教育における啓蒙主義、個人主義、自立、社会化、相互主観的な生世界等の概念を説明する。
【参考文献】　E.デュルケム（麻生誠・山村健訳）『道徳教育論』講談社学術文庫、2010

【学習する上での留意点】テーマがカタイので、楽しく、わかりやすい授業をするように心がける。

４．テ　ー　マ	現象学――生命と生世界

【学習の目標】生世界、世界の相互主観的構築等の現象学の用語を使って、人間が生きる世界を理解する方法を学習する。
【学習の内容】子ども、若者、大人が生きる「生世界」を理解する方法として、現象学の方法を詳述する。
【キーワード】現象学、自然主義的態度、エポケー（保留）、生世界（Lebenswelt）、世界の相互主観的構築
【学習の課題】エポケー（保留）、生世界、世界の相互主観的構築等の現象学の用語を使って、人間が生きる世界を解読する。
【参考文献】E.フッサール（細谷恒夫・木田元訳）『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』中公文庫、1995
【学習する上での留意点】　現象学の用語をわかりやすく解説する。

５．テ　ー　マ	プラグマティズム――生命と知の自己更新

【学習の目標】J.デューイを中心としたプラグマティズムの教育哲学を学習する。
【学習の内容】現代日本の教育改革にも強い影響を与えている J.デューイの実験主義的教育思想を詳述する。
【キーワード】プラグマティズム、経験の再構成、進化論とヘーゲル思想、実験主義、社会的個人主義
【学習の課題】デューイの言う「経験の再構成」とは何かを、深く考察する。
【参考文献】J.デューイ（松野安男訳）『民主主義と教育』（上・下）岩波文庫、2015
【学習する上での留意点】同じく生（life）に注目するが、プラグマティズムと現象学の視点の違いを丁寧に説明する。

６．テ　ー　マ	オートポイエーシス――生命の自己組織化

【学習の目標】ヒトを、オートポイエーシスとして理解すると、その能動性と自己組織性がよく見えてくることを学習する。
【学習の内容】自己組織系理論の基礎となるオートポイエーシスの考え方を詳述する。
【キーワード】オートポイエーシス、生命システム、自己再生産、観察者
【学習の課題】ヒトを生命システムとしてのオートポイエーシスとして理解すると、その自己運動性が鮮明に見えてくる。
【参考文献】　H.R.マトゥラーナ・F.J.ヴァレラ（河本英夫訳）『オートポイエーシス』国文社、2007
【学習する上での留意点】ヒトが自己組織的な生命体であることを説明する。

７．テ　ー　マ	問題感受から解決へ、という経験 ―― J,デューイ

【学習の目標】デューイ哲学における「経験」の意独自な味を深く学習する。
【学習の内容】デューイの経験は、イギリス経験論的なセンス・データ論とは異なり、観念が構築し、編集していくものである。
【キーワード】センス・データ論、観念論、構築主義、行動主義
【学習の課題】デューイ哲学における「経験」の独自な意味を、各自で深く探究する。
【参考文献】J.デューイ（市村尚久訳）『学校と社会／・子どもとカリキュラム』講談社学術文庫、2000
【学習する上での留意点】J.ロック以降のイギリス経験論とは異なるデューイの経験主義を詳述する。

８．テ　ー　マ	「正統的周辺参加」という経験 ―― J.レイヴ・E.ウェンガー

【学習の目標】J.レイヴと E.ウエンガーンの学説を紹介しながら、「学ぶ」ということは、ある状況に周辺から参加しつつ、熟達者と応答を繰り返しながら、状況に深く組み込まれていく「参加プロセス」であることを学習する。
【学習の内容】正統的周辺参加の理論と実践方法を学習する。
【キーワード】正統的周辺参加、状況に埋め込まれた学習、リフレクティブな思考と実践、熟達
【学習の課題】正統的周辺参加、状況に埋め込まれた学習、リフレクティブな思考等の語を駆使して、問題解決の方法を考える。
【参考文献】J.レイヴ・E.ウェンガー（佐伯胖訳）『状況に埋め込まれた学習――正統的周辺参加』産業図書、2003
【学習する上での留意点】この思考方法を、自己の研究の方法としても活用できるように指導する。

９．テ　ー　マ	「リフレクティブな（省察する）実践」という経験――D.ショーン

【学習の目標】リフレクティブな知とは何か、それをどう磨いていくのかを学習する。
【学習の内容】医師、看護師、教師等の対人的行為の専門家が習得する知は、単なる技術的合理性によるものではなく、個々の「状況に埋め込まれた意味」を深く感受し認知できる「リフレクテヴな（省察する）知」であることを学習する。
【キーワード】リフレクティブな実践、専門家の知、技術的合理性、行為の中のリフレクション
【学習の課題】受講生が、リフレクティブな知と実践を自分のものにできるか。
【参考文献】D.A.ショーン（柳沢昌一・三輪建二訳）『省察的実践とは何か――プロフェッショナルの行為と思考』鳳書房、2013
【学習する上での留意点】リフレクティブな思考と実践をしっかりと身につけさせる。

１０．テ　ー　マ	偶然降りかかる「受苦的経験」――O.F.ボルノー

【学習の目標】経験学習と体験学習の厳密な違いを、ドイツ語の意味から説明する。
【学習の内容】「偶然的経験から学ぶ」ということの深い意味を考察する。
【キーワード】偶然的経験、経験と体験の違い、予測のための経験、沈殿する体験
【学習の課題】経験学習と体験学習の厳密な違いを説明する。
【参考文献】O.F.ボルノー（浜田正秀訳）『人間学的に見た教育学』玉川大学出版部、2002
【学習する上での留意点】経験と体験の違いなど、コトバを厳密に使うように指導する。

１１．テ　ー　マ	言語化以前の存在のカオス ―― M.ハイデガー　1

【学習の目標】経験とは何かを多面的に考察する。
【学習の内容】主客未分で不定形の純粋経験（西田幾多郎）と存在開示のハイデガーの経験概念を比較する。
【キーワード】純粋経験、存在開示、経験、現存在、世界
【学習の課題自己変容のきっかけとしての経験の概念を学ぶ。
【参考文献】M.ハイデガー（原佑訳）『存在と時間』中央公論社、1979
井筒俊彦『意味の深みへ――東洋哲学の水位』2019
【学習する上での留意点】ハイデガーにおける経験の概念を学ぶ。

１２．テ ー マ	偶然降りかかる出来事 Ereignis）――M.ハイデガー ２

【学習の目標】人間形成における受動的で、受苦的な経験から学ぶ、とはどのようなことかを考える。
【学習の内容】偶然的世界を生きる人間の経験とは、偶発的、受動的、受苦的であるというハイデガー哲学に学ぶ。
【キーワード】偶発的経験、受動的経験、受苦を乗り越える生
【学習の課題】受苦的経験から学ぶとはどのようなことか、考察する。
【参考文献】M.ハイデガー（原佑訳）『存在と時間』中央公論社、1979
【学習する上での留意点】不意に襲いかかる「出来事」に、人間はどう対処していくのか。

１３．テ ー マ	未来を予知する経験（Empirie ）／ 偶然降りかかる経験（Erfahrung）

【学習の目標】２つの経験の違いを踏まえて、子ども、若者の経験の受動性を理解する。
【学習の内容】試行錯誤し、実験する「経験１」と、彷徨し遍歴する「経験２」とは、同じ経験でもその意味内容は全く異なる。
【キーワード】試行錯誤し実験する「経験１」、彷徨し遍歴する「経験２」
【学習の課題】２つの経験は、どう違うのかを説明する。
【参考文献】M.ハイデガー（原佑訳）『存在と時間』中央公論社、1979
【学習する上での留意点】具体例を沢山出して、わかりやすく説明する。

１４．テ ー マ	他者・異世界と出会うこと ―― 傷つきやすい生の遍歴

【学習の目標】人間形成において、他者の存在はどのような意味を有するのかを学習する。
【学習の内容】他者とは何か。人間形成において、他者の存在はどのような意味を有するのかを検討する。
【キーワード】他者、アイデンティティ危機、自己崩壊、再生、自己変容
【学習の課題】他者との出会いの持つ両義的意味を考える。
【参考文献】Chr.ヴルフ（高橋勝監訳）『教育人間学入門』玉川大学出版部、2001
【学習する上での留意点】自己と他者の関係を両義性で考察する。

１５．テ ー マ	経験のメタモルフォーゼ（自己変成）

【学習の目標】経験のメタモルフォーゼとは何かを検討する。
【学習の内容】異文化を遍歴することで、自己は傷つきながらも、変容を遂げていく。そのプロセスを解読する。
【キーワード】メタモルフォーゼ、自己変容、自己省察、異世界を生きる
【学習の課題】　経験のメタモルフォーゼを、自分の例で省察（リフレクション）してみる。
【参考文献】やまだようこ『人生を物語る――生成のライフストーリー』ミネルヴァ書房、2010
Roland Martin: *Educational Metamorphoses, Philosophical Reflection on Identity and Culture* (2007) .Rowman & Littlefield Publishers, New York.
【学習する上での留意点】狭い洞窟から外に出る、という洞窟の比喩から、「学ぶこと」と「生きること」の深い意味を考える。